広報おおねじめ

昭和46年5月31日　No. 219

編集と発行　鹿児島県肝属郡大根占町役場　企画室　企画係
（電話　大根占局　2－0511～0515）
印刷　逆瀬川印刷所　（電話 2－0140）

町の人口　昭和46年4月1日現在推計人口
男 4.930人　女 5.879人　計 10.809人
前月より 236人 減

とじて保存しておきましょう。

議長に川辺盛康氏
副議長に皆倉松二氏
＝改選後初の町議会＝

改選後初の町議会が五月六日にひらかれ、議長に川辺盛康氏、副議長に皆倉松二氏、議会選出監査委員に新原兵助氏をそれぞれ選出しました。

なお各種常任委員会の構成は次のとおりです。

総務常任委員会
委員長　原田　速雄
副委員長　落河　昭
委員　瀬戸　藤吉
〃　宮園　直矢
〃　皆倉　松二
〃　毛下　清徳

建設常任委員会
委員長　中村三勇士
副委員長　黒瀬　健郎
委員　宿利原覚哉
〃　中迫　虎吉
〃　川越　二郎
〃　毛下　栄

経済常任委員会
委員長　赤石　三矢
副委員長　新原　兵助
委員　川辺　盛康
〃　今村　利文
〃　釘田　平
〃　宮川　正明

中学校統合推進協議会委員
原田　速雄
宮園　直矢
毛下　清徳
宿利原覚哉
川辺　盛康
今村　利文

国民健康保険運営協議会委員
落河　昭
宮園　直矢
川越　二郎

町振興計画審議会委員
落河　昭
宮園　直矢
毛下　清徳
赤石　三矢

町都市計画審議会委員
瀬戸　藤吉
中村三勇士
黒瀬　健郎
川越　二郎

公衆衛生審議会委員
中村三勇士
黒瀬　健郎
今村　利文

青少年問題協議会委員
宮川　正明

民生委員推薦委員会委員
宮園　直矢

四月二十五日に行なわれた町議会議員の選挙では、二十九人が立候補し、はげしい選挙戦となりましたが、当選十八人のうち新人六人が当選されました。

選挙の結果は次のとおりです。各候補者の得票数（・以下は省略します）

当選　中村三勇士　四四七票
〃　中迫　虎吉　三一三票
〃　川越　二郎　二九九票
〃　瀬戸　藤吉　二九二票
〃　黒瀬　健郎　二七六票
〃　原田　速雄　二七六票
〃　新原　兵助　二七三票
〃　宿利原覚哉　二七〇票
〃　釘田　平　二六五票
〃　赤石　三矢　二六三票
〃　皆倉　松二　二五九票
〃　宮園　直矢　二五五票
〃　毛下　清徳　二四五票
〃　川辺　盛康　二四二票
〃　今村　利文　二三七票
〃　落河　昭　二三七票
〃　毛下　栄　二三六票
〃　宮川　正明　二一四票
次点　垣内　秀雄　二一二票
牧原　崇　二〇四票
松元　清二　一八九票
矢野　鐵雄　一八八票
前園　栄　一七五票
川崎　忠男　一六八票
前迫　文哉　一四五票
岩下　栄造　一一〇票
長岡　正一　一〇三票
村岡　昭　八六票
矢野　秀雄　二七票
以上

新町議に抱負をきく
（五十音順）

地道な努力を
赤石　三矢

今回の町議選挙では、みなさまのあたたかいご支持をいただき、引き続き議席を与えていただいたことに対し厚く感謝申し上げます。

大根占町の現状をかえりみますとき、道路、土地改良事業など、産業基盤の整備は着実になされつつありますが、一面では過疎現象の進行する中で農林水産業の振興、環境衛生教育、福祉厚生の問題など今後に残された課題はなお山積しております。

これからの町政は、激動する社会経済の動きの中で、政治、行政もまた、めまぐるしく制度の改変がありますのでこれにとり残されないよう、これらの課題の解決に地道に努力する以外にないと考えます。私も同僚議員とともにより一層努力するつもりでありますから、今後ともよろしくご助言、ご鞭撻をいただくようお願い申し上げます。

「後継者育成」を重点的に
今村　利文

今日の自由経済のもとでの生活はまさに「喰うか喰われるか」ではなく、喰われっ放しの経済戦争と云う結果は、過疎と云う現況が如実に物語っています。

昭和四十三年十一月調査で神川小学校生徒四百六十八名中百一名、二一・五％の生徒は出稼家庭の子弟であります。特に皆倉三五・四％、新町三一・二％となっています。

家族二～三人の子弟もいるし、季節的問題があるにしろその傾向は今日ますます進み出稼のみならず移住の度もはげしくなる筈です。

生活水準の上昇は農村経済を大きくゆさぶり、結果的には人手不足となり、老人と婦女子の労働力低下を来し、本町も例外なく農業で生きる困難さを我々は身にしみて感じます。

最近特に、米の生産調整に伴う作付体系の変更は急務となり、農業の曲り角でなく、まさに行きづまりと云えましょう。これは、ひとえに農業のみならず、他の産業への圧迫も免れぬ筈であり、本町の様に七割農家の貧困は直ちに商工業に影響し、購売力の減少を来す事になります。

過疎対策の主な事業は道路で、これは国策として国が協力し、自己財源の乏しい本町独自の力ではできません。

本町を「農産物生産基地」に
落河　昭

今回の選挙において四度町議会の議席を与えていただき町民各位に対し心から感謝申しあげると同時に責任の重大さをひとしお感じる次第ですいろいろな面でスピードの要求される今日、また本町のごとく過疎化がますます深刻の度を増しつつある現状では何といっても道路網の整備、港湾の充実が先決問題であります。

志布志湾一帯の臨海工業地帯実現の近い今日、本町は農産物生産基地としての役割を果すためにも道路網の整備が必要であります。

また、国有林開放の実現を

我々が努力しなければならない事は、農業振興を主とした後継者育成と経済基盤の確立を図りかつ教育振興を重点的に推進することだと思います。

六十年代の既設概念にとらわれることなく、七十年代の世論の動向をキャッチし、世の中は生きていると云うことを肝に銘じ、時の流れに逆行することなく住みよい大根占町建設に邁進したい覚悟でございます。